

令和7年
火災・救急・救助統計

松山市消防局

目 次

火災の状況	1
1 火災件数	
(1) 火災件数の推移	2
(2) 火災種別の構成割合	2
(3) 建物用途別件数	3
(4) 月別件数	4
(5) 四季別件数	4
(6) 時間帯別件数	4
(7) 地区別件数	5
(8) 地区別件数の推移	6
2 出火原因	7
3 死傷者	
(1) 死傷者数の推移	8
(2) 死者の状況	8
(3) 負傷者の状況	8
4 損害額	
(1) 損害額の推移	9
(2) 損害額の内訳	9
5 覚知方法別火災件数	10
6 初期消火の状況	10
7 署所別の火災状況	11
8 住宅用火災警報器の奏功事例	12

救急の状況

1	救急出動件数・搬送人員の状況	13
2	月別救急の状況	14
3	医療機関別搬送状況	14
4	署所別出動件数の状況	15
5	年齢別・性別搬送人員の状況	15
6	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	16
7	時間帯別出動件数の状況	16
8	現場到着所要時間の状況	17
9	収容所要時間の状況	17
10	応急処置実施状況	18
11	応急手当普及啓発活動の状況	19
12	地区別救急発生状況	20

救助の状況

1	救助出動等の状況	21
2	救助出動等の推移	22
3	事故種別・署別出動の状況	23
	事故種別出動件数と構成割合	24
	事故種別救助人員と構成割合	24
4	月別救助出動等の状況	25
5	事故種別・傷病程度別救助人員	25
6	発生場所別の出動状況	26
7	地区別救助出動状況	27

※統計中の構成比・実施比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

火

災

火災の状況

令和7年中の火災件数は125件で、前年と比較し15件増加しています。
 火災による死者は5人(前年4人)、負傷者は23人(前年25人)となっています。
 また、火災による損害額は1億567万4千円で、前年と比較すると
 2,104万4千円減少しています。

区 分		単位	(各年中) (▲減少)			
			令和7年		令和6年	
			A	爆発	B	爆発
					増 減 (A－B) C	
火災件数	合 計	件	125		110	15
	建 物 火 災 (住 宅 火 災)		90 (58)		79 (52)	11 6
	林 野 火 災					
	車両 自 動 車 火災 鉄 道		9		8	1
	船 舶 火 災					
	航 空 機 火 災					
	その他の火災*1		26		23	3
焼損棟数	合 計	棟	112		122	▲ 10
	全 焼		9		20	▲ 11
	半 焼		10		8	2
	部 分 焼		23		24	▲ 1
	ぼ や		70		70	0
	爆発損害棟数		1			1
焼損面積	建物焼損 床面積	m ²	1,438		2,705	▲ 1,267
	〃 表面積		146		261	▲ 115
	林野焼損面積	a				
死傷者	死 者 (住宅火災死者)	人	5 (5)		4 (4)	1 1
	負 傷 者		23		25	▲ 2
り災世帯	合 計	世帯	86		96	▲ 10
	全 損		11		16	▲ 5
	半 損		7		6	1
	小 損		68		74	▲ 6
り 災 人 員		人	174		184	▲ 10
損害額	合 計	千円	105,674		126,718	▲ 21,044
	建 物		100,994		117,489	▲ 16,495
	林 野					
	車両 自 動 車 火災 鉄 道		3,462		9,006	▲ 5,544
	船 舶					
	航 空 機					
	そ の 他		1,218		223	995
	爆 発					
出 火 率 *2		件	2.50		2.20	0.30

(注) *1 その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。
 *2 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいいます。
 (人口は、令和7年1月1日現在の住民基本台帳による)

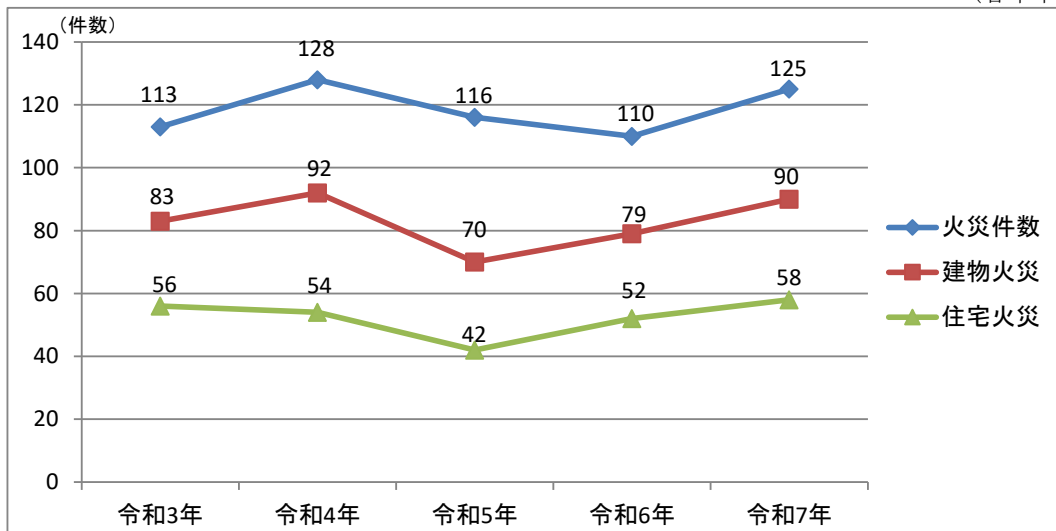
1 火災件数

(1) 火災件数の推移

火災件数は前年より15件増加した125件となっています。

また、建物火災件数は前年より11件増加した90件となっており、過去5年間平均値は82.8件です。

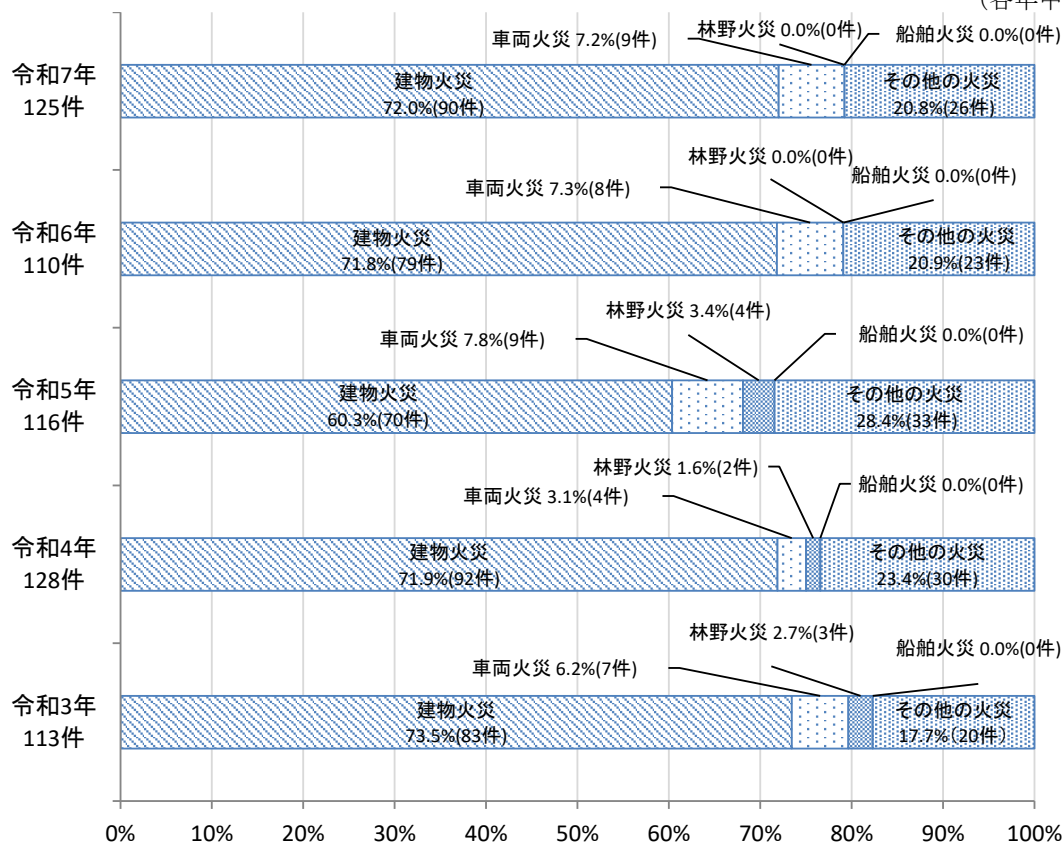
(各年中)



(2) 火災種別の構成割合

火災種別ごとの割合をみると、建物火災が全火災の72.0%(90件)を占めており、次いで、その他の火災20.8%(26件)、車両火災7.2%(9件)となっています。

(各年中)



(3) 建物用途別件数

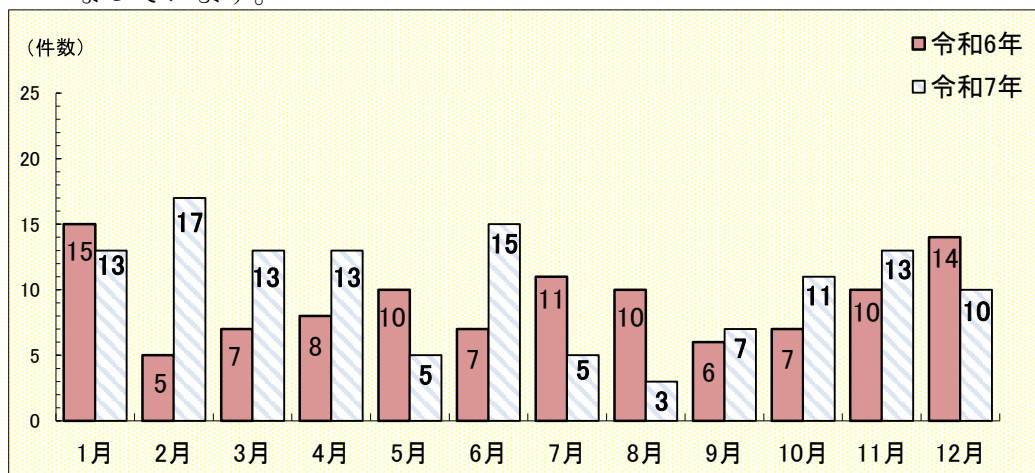
建物火災を用途別にみると、住宅（共同住宅を含む）の火災が58件と最も多く、建物火災全体の64.4%を占めています。

(各年中)

年 別 用 途	令 和 7 年	令 和 6 年	令和5年	令和4年	令和3年
専 用 住 宅	36	30	21	31	36
共 同 住 宅	19	20	21	21	17
併 用 住 宅	3	2		2	3
小 計	58	52	42	54	56
劇 場 等					
公 会 堂 等					
キ ャ バ レ ー 等					
遊 技 場 等					
性 風 俗 施 設					
カラオケボックス等					
料 理 店 等					
飲 食 店	3	1	3	3	3
物 品 販 売 店 舗 等				1	
旅 館 ・ ホ テ ル 等		1	1	1	
病 院 等					
グ ル ー プ ホ ー ム 等	3	2			
社 会 福 祉 施 設 等	3				
幼 稚 園 等					
学 校	1		1		1
図 書 館 等					
特 殊 浴 場					
公 衆 浴 場				1	
停 車 場 等					
神 社 ・ 寺 院 等					
工 場 ・ 作 業 場	4	4	5	7	1
ス タ ジ オ	1				
駐 車 場 等				1	1
航 空 機 格 納 庫					
倉 庫	1			1	1
事 務 所 等	1		2	2	1
特 定 複 合 用 途	7	12	8	9	5
非 特 定 複 合 用 途	2	2	5	5	3
地 下 街					
準 地 下 街					
文 化 財					
そ の 他	6	5	3	7	11
小 計	32	27	28	38	27
合 計	90	79	70	92	83

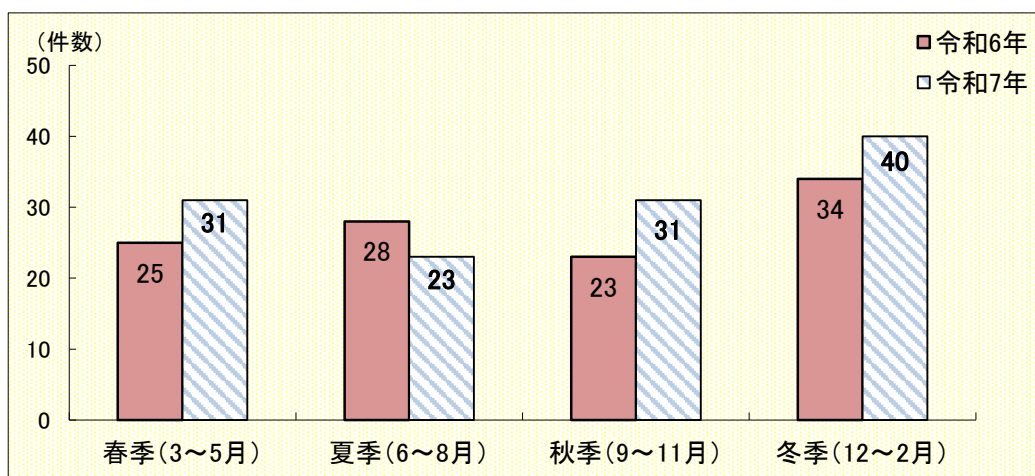
(4) 月別件数

火災件数を月別にみると、2月が17件で最も多く、次いで6月が15件、1月、3月、4月、11月が各13件と
(各年中)
なっています。



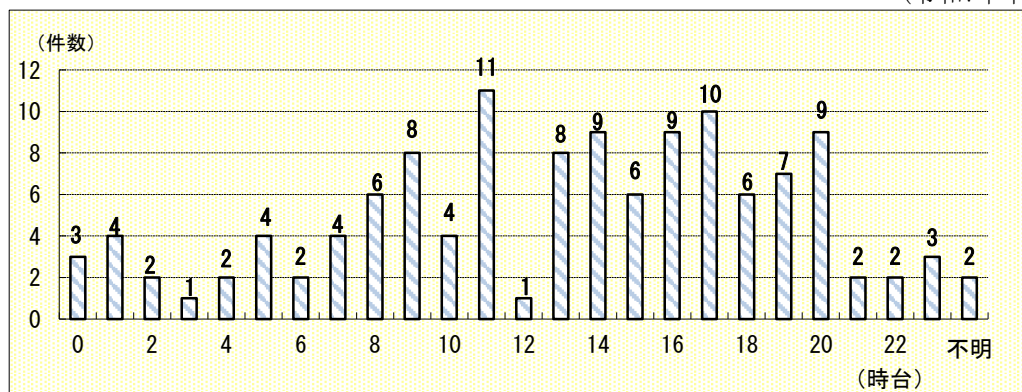
(5) 四季別件数

火災件数を四季別にみると、冬季が40件（32.0%）で最も多くなっています。
(各年中)



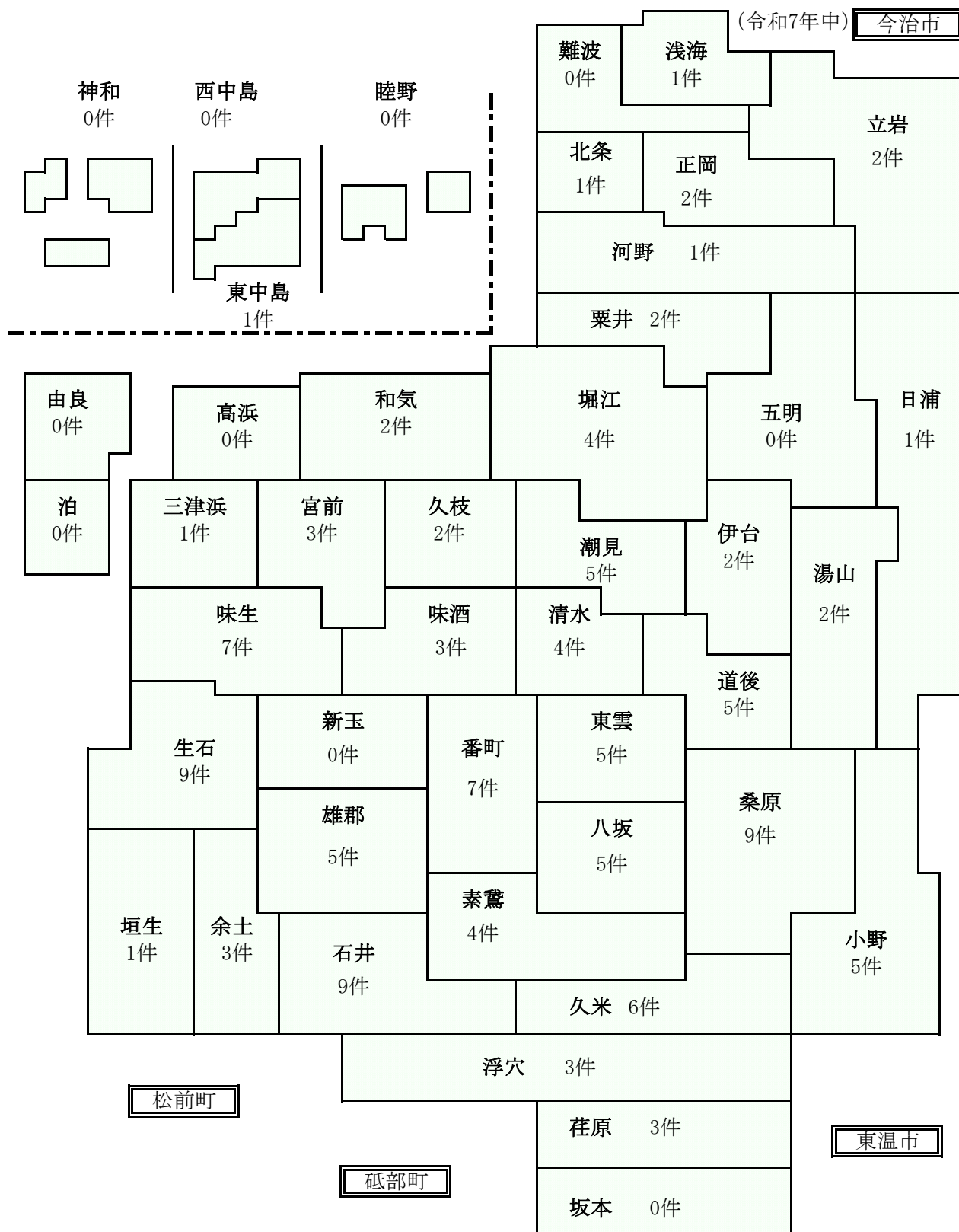
(6) 時間帯別件数

火災件数を時間帯別にみると、11時台が11件で最も多く、次いで17時台が10件、14時、16時、20時台が各9件と
(令和7年中)



(7) 地区別件数

火災件数を地区別にみると、桑原（前年 5 件）、生石（前年 5 件）、石井（前年 7 件）が 9 件と最も多く、次いで番町（前年 5 件）、味生（前年 2 件）が各 7 件、久米（前年 4 件）が 6 件となっています。



(8) 地区別件数の推移

(各年中)

	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
番町	7	5	7	6	5
東雲	5	5	7	5	3
八坂	5	2	3	0	3
素鷲	4	6	1	3	4
雄郡	5	8	6	7	6
新玉	0	5	1	2	2
味酒	3	5	4	2	4
清水	4	4	9	10	2
桑原	9	5	2	4	2
道後	5	2	3	8	4
味生	7	2	9	4	3
生石	9	6	6	6	4
垣生	1	1	1	4	2
宮前	3	5	3	3	1
三津浜	1	2	0	0	2
高浜	0	1	1	1	3
久枝	2	1	6	3	4
潮見	5	2	3	3	6
和気	2	4	3	3	5
堀江	4	2	2	3	3
余土	3	2	4	3	5
由良	0	0	0	0	1
泊	0	0	0	0	2
久米	6	5	4	4	5
湯山	2	0	4	0	0
日浦	1	1	1	1	1
伊台	2	2	0	1	2
五明	0	0	0	1	0
小野	5	1	7	5	8
浮穴	3	4	4	1	1
石井	9	7	6	12	8
荏原	3	5	3	4	2
坂本	0	4	0	1	1
浅海	1	1	1	2	2
立岩	2	0	0	3	0
難波	0	1	0	1	1
正岡	2	0	0	2	1
北条	1	0	0	1	0
河野	1	2	3	4	1
栗井	2	0	1	3	3
睦野	0	2	0	0	0
東中島	1	0	0	0	1
西中島	0	0	0	1	0
神和	0	0	1	1	0
合計	125	110	116	128	113

※松山市基準地区（44地区）

2 出火原因

全火災１２５件を出火原因別にみると、「たばこ」が２０件で最も多く、次いで「こんろ」が１９件、「たき火」が１１件、「電気機器」、「電灯等の配線」が１０件となっています。

(各年中) (▲減少)

出火原因	令和7年	令和6年	増減
たばこ	20	11	9
こんろ	19	16	3
たき火	11	10	1
電気機器	10	10	0
電灯等の配線	10	9	1
ストーブ	6	3	3
灯火	4	1	3
配線器具	3	5	▲ 2
排気管	2	4	▲ 2
放火	2	2	0
放火の疑い	2	2	0
火入れ	2	0	2
マッチ・ライター	2	0	2
内燃機関	2	0	2
溶接機・切断機	2	0	2
焼却炉	1	0	1
こたつ	1	0	1
火あそび	0	3	▲ 3
電気装置	0	2	▲ 2
取灰	0	2	▲ 2
煙突・煙道	0	1	▲ 1
その他*	16	20	▲ 4
不明・調査中	10	9	1
合計	125	110	15

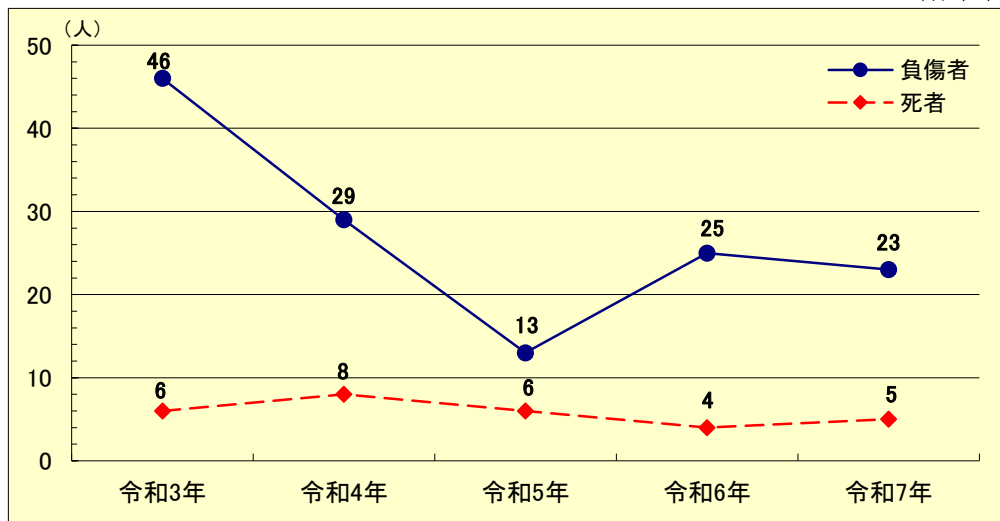
*出火原因の「その他」とは屋台用こんろ、電気トースター、線香などがあります。

3 死傷者

(1) 死傷者数の推移

火災による死者数は5人で、前年（4人）と比較すると1人増加しています。また、負傷者数は23人で、前年（25人）と比較すると2人減少しています。

(各年中)



(2) 死者の状況

死者を火災種別及び年齢層別でみると、次表のとおりとなっています。

(各年中)

(各年中)

火災種別	令和7年	令和6年
建物火災	5人	4人
林野火災	0人	0人
車両火災	0人	0人
船舶火災	0人	0人
航空機火災	0人	0人
その他の火災	0人	0人
合計	5人	4人

年齢層別	令和7年	令和6年
5歳以下	0人	0人
6歳～64歳以下	2人	1人
65歳以上	3人	3人
合計	5人	4人

(3) 負傷者の状況

火災種別及び受傷時の状況でみると、次表のとおりとなっています。

(各年中)

(各年中)

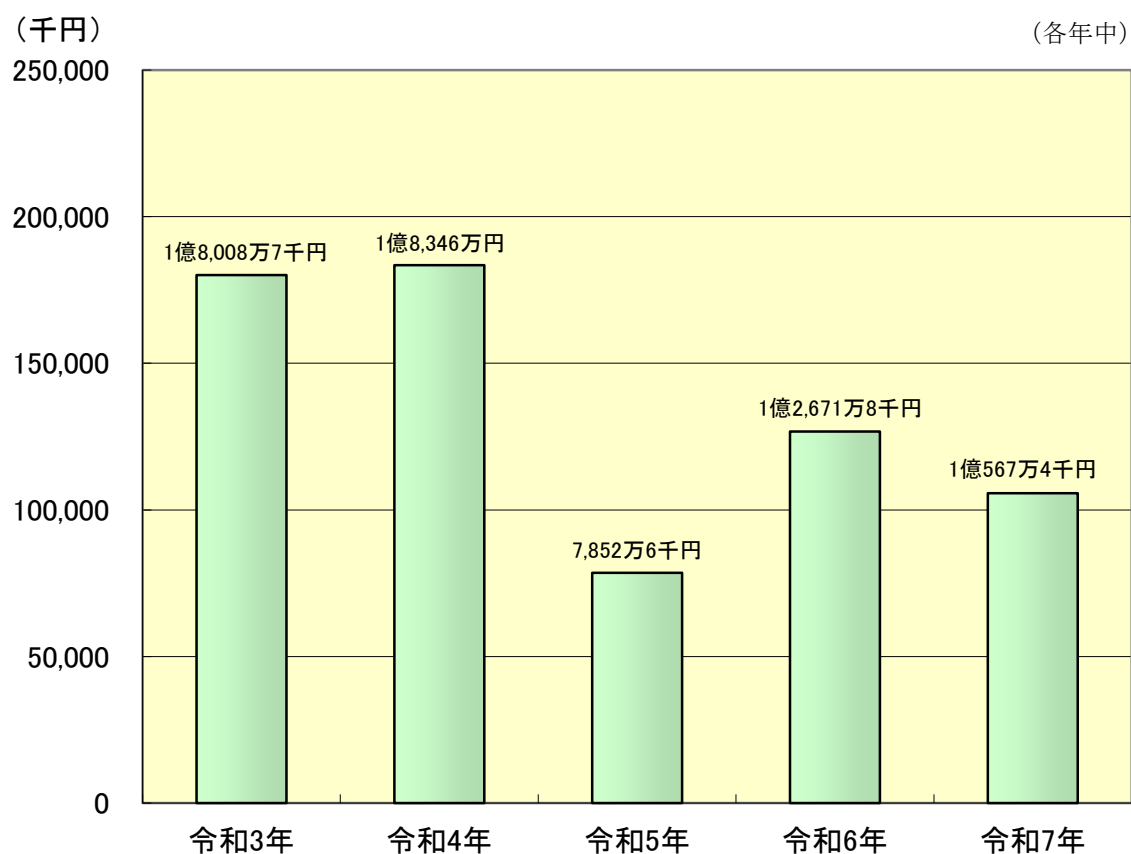
火災種別	令和7年	令和6年
建物火災	20人	21人
林野火災	0人	0人
車両火災	0人	0人
船舶火災	0人	0人
航空機火災	0人	0人
その他の火災	3人	4人
合計	23人	25人

受傷時の状況	令和7年	令和6年
消火中	14人	8人
避難中	5人	10人
就寝中	1人	2人
作業中	2人	3人
その他	1人	2人
合計	23人	25人

4 損害額

(1) 損害額の推移

火災による損害額は、1億567万4千円で、前年（1億2,671万8千円）と比較すると2,104万4千円減少しています。



(2) 損害額の内訳

損害額を損害種別ごとに過去5年間でみると、次表のとおりとなっています。

【単位：千円】

(各年中)

損 害 種 別	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	平均
建 物	100,994	117,489	73,618	181,689	174,455	129,649
林 野	0	0	0	0	0	0
車 両	3,462	9,006	4,240	1,321	4,914	4,589
船 舶	0	0	0	0	0	0
航 空 機	0	0	0	0	0	0
そ の 他	1,218	223	668	450	691	650
爆 発	0	0	0	0	27	5
合 計	105,674	126,718	78,526	183,460	180,087	134,893

5 覚知方法別火災件数

覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報が64件で最も多く、次いで、事後聞知(火災鎮火後に覚知したもの)が37件となっています。

(令和7年中)

覚知方法別	区分	件数	構成比 (%)
119 (携帯電話から)		64	51.2%
事後聞知		37	29.6%
自己覚知		1	0.8%
119 (IP電話から)		10	8.0%
119 (固定電話から)		6	4.8%
警察電話		1	0.8%
加入 (固定電話から)		1	0.8%
加入 (携帯電話から)		1	0.8%
その他		4	3.2%
合計		125	

6 初期消火の状況

初期消火の状況をみると、初期消火が実施されたのは85件で、そのうち53件(62.4%)が初期消火に成功し火災鎮圧に効果がありました。

初期消火使用器具等をみると、水道・浴槽等の水が47件で最も多く、次いで粉末消火器が17件となっています。

(令和7年中)

火災件数	125
初期消火実施	85 (68.0%)
初期消火なし	40 (32.0%)

初期消火使用器具等	実施件数	成功件数	実施比率	成功率
水道・浴槽等の水	47	29	55.3%	61.7%
粉末消火器	17	10	20.0%	58.8%
寝具、衣類等	6	5	7.1%	83.3%
もみ消す	4	2	4.7%	50.0%
二酸化炭素消火器	1	0	1.2%	0.0%
その他	10	7	11.8%	70.0%
合計	85	53		62.4%

7 署所別の火災状況

(令和7年中)

区 分 署 別		件 数 (件)	死 者 (人)	負傷者 (人)	建物焼損 床面積(㎡)	建物焼損 表面積(㎡)	林野焼損 面積(a)	損 害 額 (千 円)
中央署		33	2	5	276	88	0	28,083
	本 署	12	1	2	111	30	0	10,307
	城 北	12	1	1	52	43	0	7,584
	北 条	9	0	2	113	15	0	10,192
東 署		31	2	3	509	22	0	44,771
	本 署	16	2	2	356	22	0	27,357
	城 東	15	0	1	153	0	0	17,414
南 署		36	0	12	461	26	0	24,627
	本 署	28	0	9	180	14	0	11,611
	東 部	8	0	3	281	12	0	13,016
西 署		25	1	3	192	10	0	8,193
	本 署	16	1	3	170	5	0	6,920
	西 部	9	0	0	22	5	0	1,273
合 計		125	5	23	1,438	146	0	105,674

8 住宅用火災警報器の奏功事例（令和7年）

【事例1】近隣住民が警報音に気づき、被害を最小限に抑えた事例①

近隣住民が住宅からの警報音に気づき、119番通報した。
その後、居住者が帰宅し、速やかに初期消火し、被害を最小限に抑えられた。

【事例2】火元住人が警報音に気づき、被害を最小限に抑えた事例②

火元住人が警報音に気づき、洗面台付近が燃えているのを発見。
速やかに初期消火し、被害を最小限に抑えられた。

【事例3】住人が警報音に気づき、火災を未然に防いだ事例①

住人が警報音に気づき、電子レンジから煙が出ているのを発見。
電子レンジを止めて煙が収まり、火災を未然に防げた。

【事例4】住人が警報音に気づき、火災を未然に防いだ事例②

住人が警報音に気づき、ガスコンロの火にかけたままの鍋から煙が出ているのを発見。
ガスコンロの火を止め、火災を未然に防げた。

【事例5】火元住人が警報音に気づき、初期消火に成功した事例

火元住人が警報音に気づき、ガスコンロの火が周囲の収容物に燃え移っているのを発見。
速やかに初期消火し、被害を最小限に抑えられた。

【事例6】火元住人が警報音に気づき、早期の避難につながった事例

住人が警報音に気づき、廊下から炎が上がっているのを発見。
早急に屋外へ避難したことから負傷しなかった。

- 住宅用火災警報器は、火災を早期に発見し、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く行うことができ、被害の軽減に役立ちます。適切な設置と維持管理を行いましょう。
- 住宅用火災警報器は、古くなると電池切れや、故障する可能性があります。日頃から正常に作動するか確認し、10年を目安に交換しましょう。
- 作動確認や設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」を御確認ください。
- 日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

救 急

救急の状況

令和7年中の救急出動件数は31,039件、搬送人員は28,610人で、前年と比較し出動件数、搬送人員ともに減少しています。

これは、1日平均85件、16分56秒に1回の割合で救急車が出動し、市民17人に1人の割合で搬送されたことになります。

1 救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この4種別だけで出動件数全体の96.3%、搬送人員は全体の97.6%を占めています。

(▲は減少)

区 分	単位	令和7年 A	構成比 (%)	令和6年 B	構成比 (%)	増減 (A - B) C	増減率 (C / B × 100) (%)
出動件数	件	31,039	100.0	31,543	100.0	▲ 504	▲ 1.6
内 訳	火災	102	0.3	85	0.3	17	20.0
	自然	0	0.0	13	0.0	▲ 13	▲ 100.0
	水難	15	0.0	11	0.0	4	36.4
	交通	2,234	7.2	2,172	6.9	62	2.9
	労災	215	0.7	183	0.6	32	17.5
	運動	175	0.6	194	0.6	▲ 19	▲ 9.8
	一般	4,545	14.6	4,544	14.4	1	0.0
	加害	106	0.3	83	0.3	23	27.7
	自損	239	0.8	238	0.8	1	0.4
	急病	19,454	62.7	19,935	63.2	▲ 481	▲ 2.4
	転院	3,662	11.8	3,801	12.1	▲ 139	▲ 3.7
	その他	292	0.9	284	0.9	8	2.8
搬送件数	件	28,488	-	28,616	-	▲ 128	▲ 0.4
搬送人員	人	28,610	100.0	28,748	100.0	▲ 138	▲ 0.5
内 訳	火災	21	0.1	22	0.1	▲ 1	▲ 4.5
	自然	0	0.0	5	0.0	▲ 5	▲ 100.0
	水難	6	0.0	4	0.0	2	50.0
	交通	2,056	7.2	1,966	6.8	90	4.6
	労災	213	0.7	178	0.6	35	19.7
	運動	172	0.6	196	0.7	▲ 24	▲ 12.2
	一般	4,302	15.0	4,224	14.7	78	1.8
	加害	88	0.3	69	0.2	19	27.5
	自損	193	0.7	168	0.6	25	14.9
	急病	17,919	62.6	18,151	63.1	▲ 232	▲ 1.3
	転院	3,640	12.7	3,765	13.1	▲ 125	▲ 3.3
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
出動平均（1日）	件	85.0		86.2			
出動間隔		16分56秒		16分43秒			

※1 出動平均については、前年比1日あたり1.2件減少しています。

※2 出動間隔については、前年比13秒長くなっています。

2 月別救急の状況

出動件数、搬送人員ともに1月が一番多くなっています。

月別	出動件数	出 動 件 数 内 訳												搬送人員
		火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	
1	3,179	11	0	2	181	15	4	460	11	11	2,134	323	27	2,878
2	2,592	15	0	0	150	16	18	384	7	18	1,634	334	16	2,348
3	2,480	9	0	1	169	15	12	374	15	17	1,542	303	23	2,293
4	2,348	5	0	1	183	11	10	352	8	18	1,443	288	29	2,180
5	2,278	2	0	0	181	16	19	311	5	25	1,402	293	24	2,129
6	2,324	8	0	0	172	22	16	311	12	20	1,472	270	21	2,147
7	2,640	2	0	0	210	22	24	319	10	27	1,692	311	23	2,443
8	2,809	5	0	6	211	36	24	348	10	28	1,832	284	25	2,607
9	2,471	10	0	2	189	17	19	379	8	22	1,477	325	23	2,294
10	2,582	7	0	0	209	13	13	443	5	20	1,534	314	24	2,400
11	2,488	13	0	1	176	14	10	398	7	23	1,536	278	32	2,281
12	2,848	15	0	2	203	18	6	466	8	10	1,756	339	25	2,610
計	31,039	102	0	15	2,234	215	175	4,545	106	239	19,454	3,662	292	28,610

3 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関26,367人(92.2%)、その他の医療機関2,242人(7.8%)、その他の場所1人となっています。

事故種別等 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	16,536	1,978	4,163	3,690	26,367
その他の医療機関	1,383	78	139	642	2,242
その他の場所	0	0	0	1	1
合計	17,919	2,056	4,302	4,333	28,610

※ 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことです。

4 署所別出動件数の状況

松山市の救急車は、１７台です。
うち２台は、平日日勤時間帯に機動救急隊として運用しています。

署所 種別	中央署				東 署				南 署			西 署			救急課			消防局	合計
	本署	城北	北条1	*1 北条2	本署	城東1	城東2	湯山	本署	東部	久谷	本署	西部	*2 本署2	*3 WS	*4 機動1	*4 機動2	非常用	
火災	6	4	4	0	11	17	13	6	3	9	6	9	8	1	5	0	0	0	102
自然	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水難	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	7	0	0	0	0	15
交通	218	135	78	18	154	254	219	57	185	155	60	133	215	7	164	80	99	3	2,234
労災	17	19	5	4	16	15	21	8	13	12	7	33	19	2	9	7	8	0	215
運動	16	5	17	6	7	18	15	4	12	5	10	9	26	3	8	5	7	2	175
一般	435	284	225	52	316	422	436	172	360	228	124	369	409	76	321	131	170	15	4,545
加害	8	5	2	0	6	19	22	2	2	1	0	14	9	0	14	2	0	0	106
自損	37	10	7	0	5	24	19	0	25	13	5	22	22	2	30	7	10	1	239
急病	2,014	1,268	838	177	1,351	1,898	1,878	580	1,571	1,243	503	1,520	1,864	191	1,427	528	539	64	19,454
転院	199	122	119	32	452	409	400	81	432	302	62	172	218	29	283	116	228	6	3,662
その他	15	6	2	1	14	16	29	6	10	5	1	13	8	1	156	2	7	0	292
合計	2,965	1,861	1,297	290	2,332	3,092	3,053	916	2,613	1,973	778	2,297	2,798	319	2,417	878	1,068	91	31,039

- *1 消防隊兼務
- *2 島しょ部対応、消防救急艇兼務
- *3 救急ワークステーション
- *4 平日日勤時間帯に運用

5 年齢別・性別搬送人員の状況

年齢別・性別で搬送人員をみると、高齢者が１７，９２１人で全体の６２．６％を占めています。

区 分	令和7年			令和6年		
	男	女	合 計	男	女	合 計
新 生 児	23	26	49	32	20	52
乳 幼 児	627	406	1,033	583	388	971
少 年	514	372	886	493	359	852
成 人	4,506	4,215	8,721	4,428	4,188	8,616
高 齢 者	8,551	9,370	17,921	8,555	9,702	18,257
合 計	14,221	14,389	28,610	14,091	14,657	28,748

(年齢区分)
 新生児 生後２８日未満の者
 乳幼児 生後２８日以上満７歳未満の者
 少 年 満７歳以上満１８歳未満の者
 成 人 満１８歳以上満６５歳未満の者
 高齢者 満６５歳以上の者

6 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡３２２人（１．１％）、重症８５８人（３．０％）、中等症１０，４９２人（３６．７％）、軽症１６，９３８人（５９．２％）となっており、軽症の占める割合が多くなっています。

種別 傷病程度	合 計	火 災	自 然	水 難	交 通	労 災	運 動	一 般	加 害	自 損	急 病	そ の 他
死 亡	322	1	0	3	6	0	0	23	1	22	263	3
重 症	858	3	0	1	39	8	0	58	0	15	649	85
中 等 症	10,492	3	0	1	248	59	24	1,251	8	42	5,339	3,517
軽 症	16,938	14	0	1	1,763	146	148	2,970	79	114	11,668	35
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	28,610	21	0	6	2,056	213	172	4,302	88	193	17,919	3,640

（傷病程度）

死 亡 初診時において、死亡が確認されたもの
 重 症 傷病の程度が３週間以上の入院加療を必要とするもの
 中等症 傷病の程度が入院を要するもので重症に至らないもの
 軽 症 傷病の程度が入院加療を必要としないもの
 その他 搬送したが医師の診断がないもの及びその他の場所へ搬送したもの

7 時間帯別出動件数の状況

出動件数が多い時間帯は、１０時から１２時が４，０４４件（１３．０％）、８時から１０時が３，７０２件（１１．９％）となっています。

時間 種別	急 病	交通事故	一般負傷	その他	計
０時～ ２時	1,026	48	147	130	1,351
２時～ ４時	885	28	127	110	1,150
４時～ ６時	871	31	132	103	1,137
６時～ ８時	1,346	168	295	136	1,945
８時～ １０時	2,237	384	566	515	3,702
１０時～ １２時	2,188	288	587	981	4,044
１２時～ １４時	2,035	250	540	863	3,688
１４時～ １６時	1,765	245	493	631	3,134
１６時～ １８時	1,830	320	510	586	3,246
１８時～ ２０時	2,022	268	525	330	3,145
２０時～ ２２時	1,883	114	372	246	2,615
２２時～ ２４時	1,366	90	251	175	1,882
合 計	19,454	2,234	4,545	4,806	31,039

8 現場到着所要時間の状況

救急自動車による現場到着時間は、10分未満が22,234件（71.6%）となっており、現場到着時間の平均は9分04秒となっています。

現場到着 事故種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	合計	平均所要 時間
急病	90	721	12,826	5,509	308	19,454	9分15秒
交通事故	23	112	1,432	623	44	2,234	9分09秒
一般負傷	24	183	2,918	1,319	101	4,545	9分29秒
その他	243	586	3,076	804	97	4,806	7分56秒
合計	380	1,602	20,252	8,255	550	31,039	9分04秒
構成比（%）	1.2	5.2	65.2	26.6	1.8	100.0	—
令和6年（%）	1.1	5.0	64.5	27.5	1.8	100.0	9分09秒

※現場到着所要時間とは、入電から現場に到着するまでに要した時間

9 収容所要時間の状況

傷病者の病院収容時間は、30分未満が9,105件（31.8%）となっており、病院収容時間の平均は38分54秒となっています。

収容所要 事故種別	10分 未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	合計	平均収容 時間
急病	0	299	4,636	11,249	1,638	97	17,919	39分58秒
交通事故	0	29	381	1,451	187	8	2,056	41分35秒
一般負傷	0	60	957	2,772	484	29	4,302	42分17秒
その他	5	861	1,877	1,431	149	10	4,333	29分49秒
合計	5	1,249	7,851	16,903	2,458	144	28,610	38分54秒
構成比（%）	0.0	4.4	27.4	59.1	8.6	0.5	100.0	—
令和6年（%）	0.0	4.8	27.9	58.2	8.6	0.4	100.0	38分51秒

10 応急処置実施状況

救急救命士等が行った救命処置は、525件（前年463件）となっています。

事故種別 応急処置	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
	17,912	2,053	4,297	4,281	28,543
止血	38	59	253	41	391
被覆	97	613	1,070	134	1,914
固定	37	282	246	104	669
保温	307	14	48	57	426
酸素吸入	2,871	53	164	1,078	4,166
人工呼吸のみ実施	12	1	1	2	16
胸骨圧迫のみ実施	17	0	2	3	22
● うち自動心臓マッサージ器使用	5	0	1	1	7
心肺蘇生（胸骨圧迫・人工呼吸）	464	8	30	41	543
● うち自動心臓マッサージ器使用	158	3	11	10	182
気道確保	561	14	51	43	669
● うち経鼻エアウェイ	4	0	0	1	5
● うち喉頭鏡・鉗子等	9	0	14	0	23
●◎ うちラリングアルマスク等	159	3	7	6	175
●◎ 気管挿管	9	0	5	0	14
● 在宅療法継続	81	1	7	1	90
● ショックパンツ	0	0	0	0	0
●◎ 除細動	24	0	0	0	24
●◎ 静脈路確保	150	7	9	7	173
うち心肺停止前（ブドウ糖含む）	40	3	3	1	47
うち心肺停止後	110	4	6	6	126
●◎ 薬剤投与	33	0	0	0	33
アドレナリン投与	17	0	0	0	17
エピペン投与	0	0	0	0	0
ブドウ糖投与	16	0	0	0	16
●◎ 血糖測定	102	2	2	0	106
● 血圧測定	16,810	2,009	4,059	4,040	26,918
● 聴診器	1,856	81	137	155	2,229
● 血中酸素飽和度の測定	17,399	2,039	4,226	4,209	27,873
● 心電図	4,604	59	167	568	5,398
その他	17,399	2,036	4,252	4,050	27,737
合計	62,862	7,278	14,724	14,533	99,397
● 拡大された応急処置等	41,403	4,204	8,645	8,998	63,250
◎ 特定行為等	477	12	23	13	525

（注）

「●」とは、拡大された応急処置の項目

「◎」とは、救急救命士が行う特定行為等の項目

1 1 応急手当普及啓発活動の状況

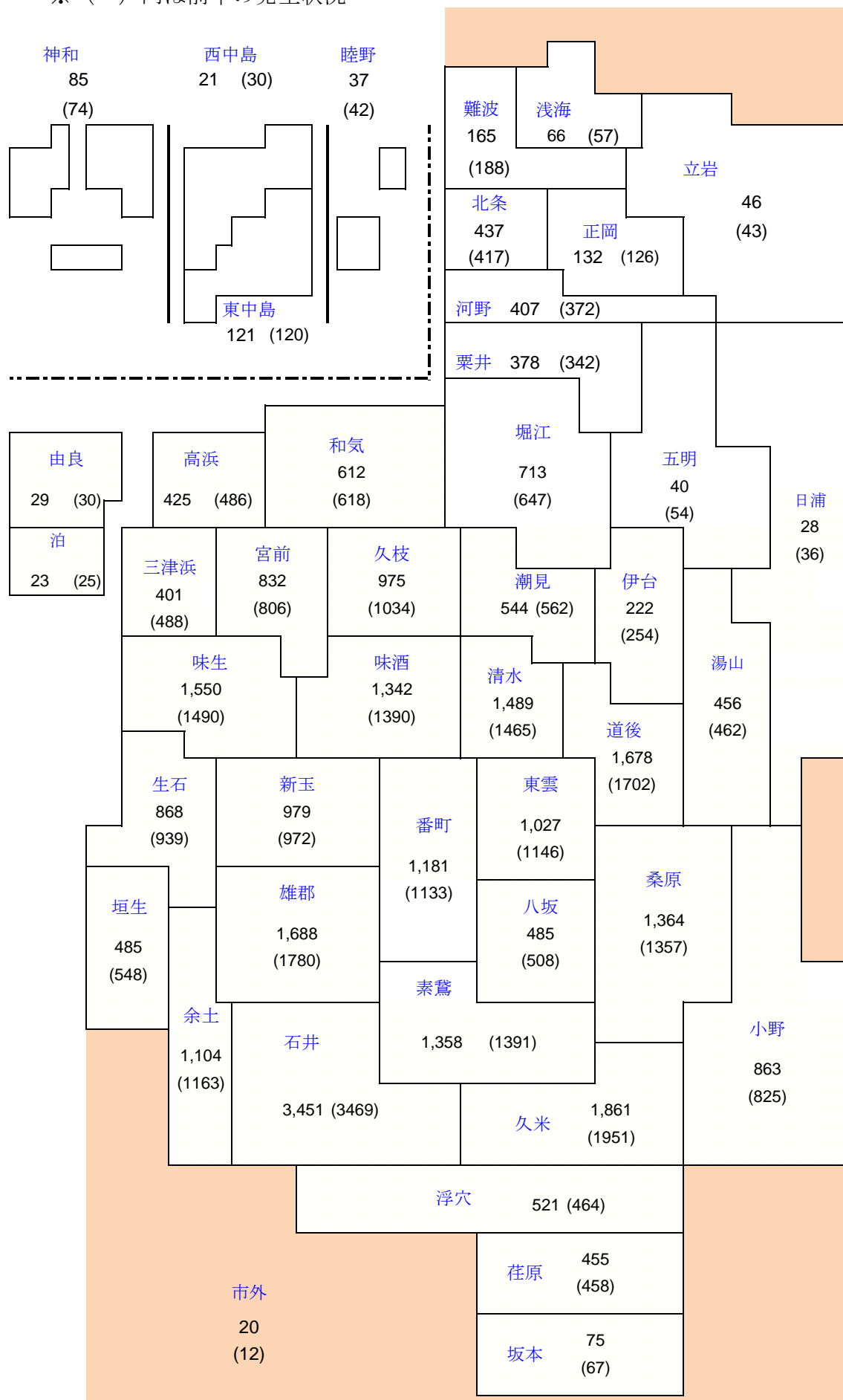
平成6年から令和7年までの32年間で、36万5,628人の市民が応急手当の講習を受講しました。

区分 年	普通救命講習		上級救命講習		その他の講習		合 計	
	回数	受講人員	回数	受講人員	回数	受講人員	回数	受講人員
平成 6年	23	944			57	2,850	80	3,794
平成 7年	33	1,216			65	3,100	98	4,316
平成 8年	42	1,607	2	112	77	4,395	121	6,114
平成 9年	48	1,760	4	152	79	4,456	131	6,368
平成10年	67	2,474	5	153	88	4,669	160	7,296
平成11年	118	3,933	6	195	113	7,185	237	11,313
平成12年	133	4,014	8	228	110	6,425	251	10,667
平成13年	139	4,344	13	318	65	3,311	217	7,973
平成14年	152	4,914	33	838	84	3,510	269	9,262
平成15年	195	5,537	38	965	87	4,586	320	11,088
平成16年	219	5,286	41	1,376	59	2,698	319	9,360
平成17年	253	5,943	26	858	126	5,158	405	11,959
平成18年	344	8,631	41	1,124	132	5,781	517	15,536
平成19年	390	9,502	47	1,154	175	7,716	612	18,372
平成20年	389	9,600	43	1,175	216	9,721	648	20,496
平成21年	345	8,342	21	538	251	11,249	617	20,129
平成22年	335	7,910	19	489	217	11,474	571	19,873
平成23年	324	7,211	11	317	236	13,028	571	20,556
平成24年	356	8,389	11	236	201	9,848	568	18,473
平成25年	325	7,550	11	302	146	6,698	482	14,550
平成26年	355	8,014	14	381	158	6,687	527	15,082
平成27年	324	8,146	11	390	147	7,507	482	16,043
平成28年	327	7,905	8	256	138	6,116	473	14,277
平成29年	307	7,640	11	316	118	5,330	436	13,286
平成30年	314	7,666	11	279	121	4,694	446	12,639
令和元年	312	7,024	17	305	169	8,060	498	15,389
令和 2年	99	1,806	1	7	20	721	120	2,534
令和 3年	143	2,121	5	107	15	346	163	2,574
令和 4年	149	2,202	4	82	29	701	182	2,985
令和 5年	281	5,068	7	164	57	1,198	345	6,430
令和 6年	309	5,859	15	268	54	1,479	378	7,606
令和 7年	327	6,330	10	152	59	2,806	396	9,288
合 計	7,477	178,888	494	13,237	3,669	173,503	11,640	365,628

1 2 地区別救急発生状況

出動件数 **31,039** 件 (前年**31,543** 件)

※ () 内は前年の発生状況



救 助

救助の状況

令和7年中の救助出動件数は、265件（前年250件）、活動件数は203件（前年186件）です。

前年と比較すると、出動件数は、15件（6.0%）、活動件数は17件（9.1%）増加しています。

また、救助人員は、173人（前年149人）で、前年と比較すると、24人（16.1%）増加しています。

1 救助出動等の状況

（▲は減少）

区 分		令和7年 A	令和6年 B	増減（A－B） C	増減率 $C/B \times 100$ (%)
出 動 件 数		265	250	15	6.0
活 動 件 数		203	186	17	9.1
救 助 人 員		173	149	24	16.1
	内 訳				
	男性	91	81	10	12.3
	女性	82	68	14	20.6
出 動 台 数		1,355	1,343	12	0.9
出 動 人 員		4,481	4,642	▲ 161	▲ 3.5
事 故 種 別 出 動 件 数	火 災	15	11	4	36.4
	交 通	63	47	16	34.0
	水 難	8	7	1	14.3
	自 然 災 害	1	4	▲ 3	▲ 75.0
	機 械	1	3	▲ 2	▲ 66.7
	建 物	117	119	▲ 2	▲ 1.7
	ガ ス ・ 酸 欠	5	2	3	150.0
	破 裂	0	0	0	—
	そ の 他	55	57	▲ 2	▲ 3.5

（注）火災での出動件数は、救助活動を行った件数を計上しています。

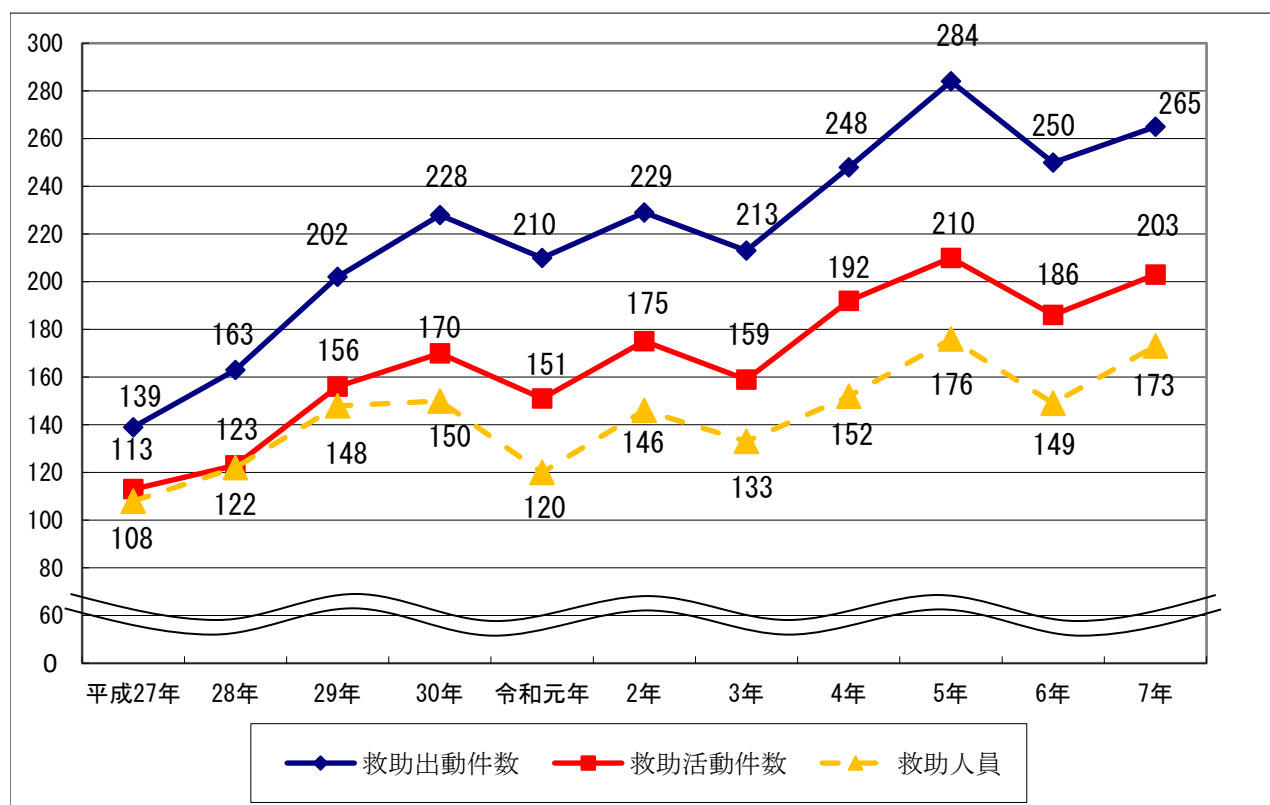
2 救助出動等の推移

10年前の平成27年を指数100とした場合、出動件数191、活動件数180、救助人員160となっています。

(▲は減少)

区分 年	救助出動件数			救助活動件数			救助人員		
	件数	指数	対前年 増減率 (%)	件数	指数	対前年 増減率 (%)	人数	指数	対前年 増減率 (%)
平成27年	139	100	—	113	100	—	108	100	—
平成28年	163	117	17.3	123	109	8.8	122	113	13.0
平成29年	202	145	23.9	156	138	26.8	148	137	21.3
平成30年	228	164	12.9	170	150	9.0	150	139	1.4
令和元年	210	151	▲ 7.9	151	134	▲ 11.2	120	111	▲ 20.0
令和2年	229	165	9.0	175	155	15.9	146	135	21.7
令和3年	213	153	▲ 7.0	159	141	▲ 9.1	133	123	▲ 8.9
令和4年	248	178	16.4	192	170	20.8	152	141	14.3
令和5年	284	204	14.5	210	186	9.4	176	163	15.8
令和6年	250	180	▲ 12.0	186	165	▲ 11.4	149	138	▲ 15.3
令和7年	265	191	6.0	203	180	9.1	173	160	16.1

(件/人)



3 事故種別・署別出動の状況

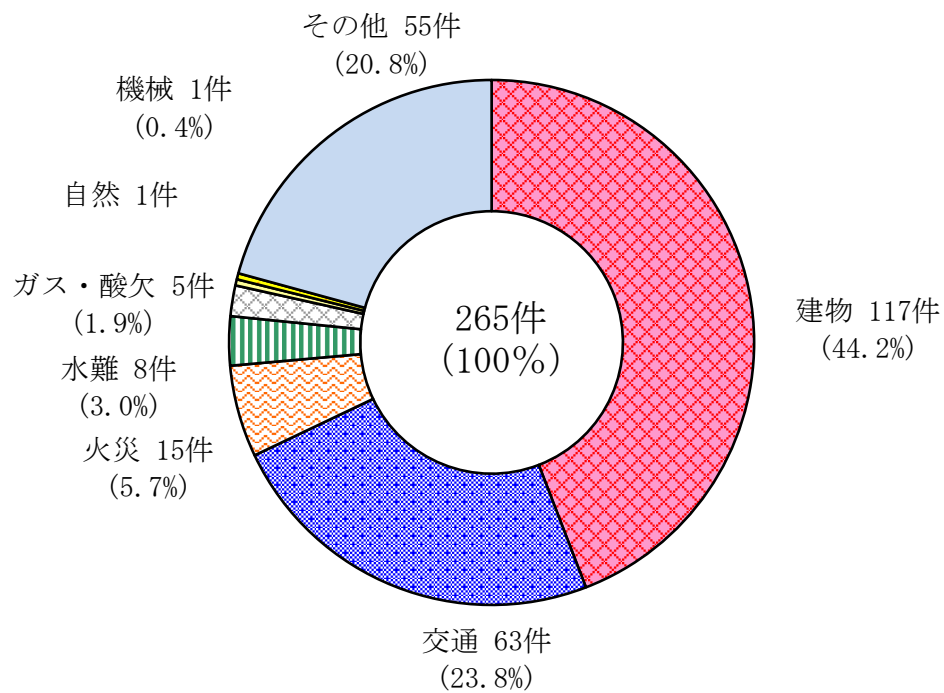
事故種別ごとに救助活動の状況をみると、出動件数で最も多いのは、建物等での事故の117件で、全体の44.2%を占め、次いで交通事故の63件(23.8%)となっています。

活動件数で最も多いのは、建物等での事故の93件で、全体の45.8%を占め、次いで交通事故の37件(18.2%)となっています。

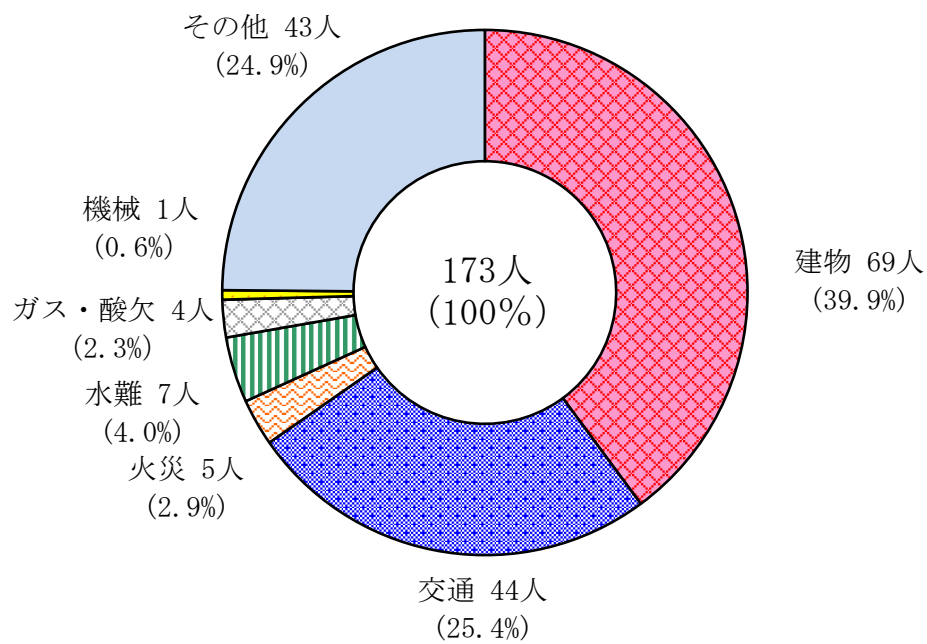
また、救助人員についても、建物等での事故が最も多く69人で、全体の39.9%を占め、次いで交通事故の44人(25.4%)となっています。

事故種別 署別		火 災	交 通	水 難	自 然	機 械	建 物	ガ ス ・ 酸 欠	破 裂	そ の 他	合 計
中央 消防署	出動件数	4	23	2	1		45	2		21	98
	活動件数	4	11	1	1		35	2		17	71
	救助人員	1	15	1			24	2		17	60
	出動台数	45	108	14	3		222	12		93	497
	出動人員	177	347	41	10		719	36		306	1,636
東 消防署	出動件数	5	11	1			26	1		14	58
	活動件数	5	7	1			22	1		12	48
	救助人員	2	8	1			17	1		11	40
	出動台数	53	60	6			120	7		58	304
	出動人員	192	188	21			391	21		184	997
南 消防署	出動件数	5	16	1			28			8	58
	活動件数	5	11	1			21			5	43
	救助人員	2	13	1			16			5	37
	出動台数	57	76	6			137			34	310
	出動人員	219	233	22			427			108	1,009
西 消防署	出動件数	1	13	4		1	18	2		12	51
	活動件数	1	8	4		1	15	2		10	41
	救助人員		8	4		1	12	1		10	36
	出動台数	11	55	30		7	88	14		39	244
	出動人員	45	170	92		41	283	42		166	839
合 計	出動件数	15	63	8	1	1	117	5	0	55	265
	構成比(%)	5.7	23.8	3.0	0.4	0.4	44.2	1.9	0.0	20.8	100.0
	活動件数	15	37	7	1	1	93	5	0	44	203
	構成比(%)	7.4	18.2	3.4	0.5	0.5	45.8	2.5	0.0	21.7	100.0
	救助人員	5	44	7	0	1	69	4	0	43	173
	構成比(%)	2.9	25.4	4.0	0.0	0.6	39.9	2.3	0.0	24.9	100.0
	出動台数	166	299	56	3	7	567	33	0	224	1,355
	出動人員	633	938	176	10	41	1,820	99	0	764	4,481

事故種別出動件数と構成割合



事故種別救助人員と構成割合



4 月別救助出動等の状況

月別に出動の状況をみると、8月が最も多く34件で、次いで1月の30件となり、月平均22.1件の出動となっています。

区分 月別	出動件数	活動件数	救助人員	事故種別出動件数								
				火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他
1月	30	26	25	2	5	1			15	1		6
2月	14	9	6					1	9			4
3月	16	11	7	1	6				6			3
4月	21	19	17	1	5	2			9			4
5月	7	4	3		1		1		2			3
6月	25	19	20	2	9				5			9
7月	26	16	14	1	9				11			5
8月	34	26	23	2	6	2			18	1		5
9月	25	21	18	2	7	1			7			8
10月	22	18	16	1	6				10	1		4
11月	20	14	11	1	3	1			10	2		3
12月	25	20	13	2	6	1			15			1
合計	265	203	173	15	63	8	1	1	117	5	0	55

5 事故種別・傷病程度別救助人員

救助人員を事故種別・傷病程度別でみると、建物等での事故の軽症が30人（17.3%）と最も多く、次いで建物等での事故の中等症の24人（13.9%）、交通事故の軽症の23人（13.3%）の順になっています。

区分	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
火災	1	1		2	1	5
交通	2	6	10	23	3	44
水難	6			1		7
自然						0
機械				1		1
建物	3	4	24	30	8	69
ガス・酸欠	4					4
破裂						0
その他	2	3	12	17	9	43
合計	18	14	46	74	21	173

6 発生場所別の出動状況

発生場所別に出動の状況を見ると、屋内が145件で、出動件数全体の54.7%を占め、屋外は115件で43.4%となっています。

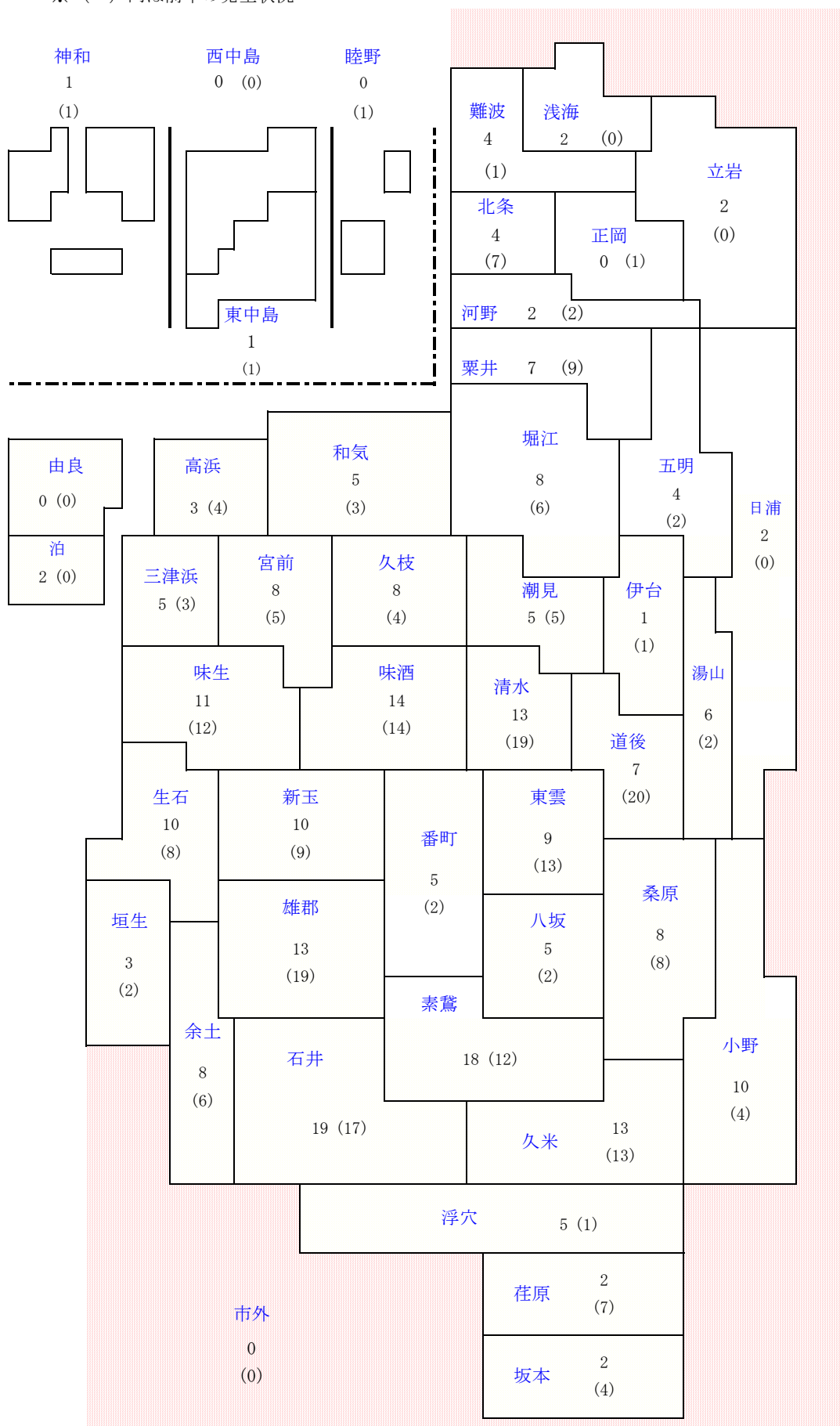
事故種別 発生場所別	火災		交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他	合計
	建物	建物以外									
屋 内	14	0			0	0	117	2		12	145
	5	0			0	0	69	1		5	80
	12						109	1		10	132
	5						65	1		4	75
	2						8	1		2	13
							4			1	5
屋 外		1	63	8	0	1	0	3		39	115
			44	7	0	1	0	3		32	87
											0
											0
		1	49							1	51
			34							1	35
			3	2						4	9
			2	2						4	8
			0	6						2	8
				5						2	7
										4	4
										2	2
			11			1		3		28	43
			8			1		3		23	35
地 下											0
											0
そ の 他					1					4	5
										6	6
合 計	14	1	63	8	1	1	117	5	0	55	265
	5	0	44	7	0	1	69	4	0	43	173

(注) 救助人員数

7 地区別救助出動状況

出動件数 265件 (前年 250件)

※ () 内は前年の発生状況



令和7年 火災・救急・救助統計

- 火災統計に関するお問合せは
松山市消防局予防課 火災調査担当
TEL: (089) 926-9247 FAX: (089) 926-9163
E-Mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp
- 救急統計に関するお問合せは
松山市消防局救急課 救急管理担当
TEL: (089) 926-9227 FAX: (089) 926-9187
E-Mail: sbkyukyu@city.matsuyama.ehime.jp
- 救助統計に関するお問合せは
松山市消防局警防課 消防・救助担当
TEL: (089) 926-9220 FAX: (089) 926-9188
E-Mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp